

九条会議で感じたこと

その1

「戦争は本当になくなるのか？」と最近ずっと考えていた。戦争して、争って、何かを得たり失ったりすることはもしかすると人間の本能かなんかで…それを終わらせるなんてことは無理なんじゃないか、と思う自分がいた。

でも一日目にでてみると、私でも一度は名前を聞いたことのあるような有名な人達が「戦争はなくせます！NO MORE WOR！」と叫んで、みんなが拍手していた。それでも、やっぱり私には「戦争はなくなるのだろうか」という疑問が残っていた。

でもその有名な人のなかでこんなことを言った人がいた「アパルトヘイトも奴隷制度もなくすことができました。戦争だってなくせます！」なるほどなあと思った。アパルトヘイトも奴隷制度も酷いものだけど（まだそこまで知らないけど）人を殺し、殺され、たくさんの人を哀しませ、世界のいろいろな問題の原因になっている戦争は1番酷いじゃないか。なんでなくなるらないんだ。

そういえば鬼さんが言ってた。「一部の人が儲かるから」と。一部の人のためにたくさんの民衆が苦しむということだ。戦争で苦しむのは民衆、その民衆が声を上げれば変わるかもしれない。うーん、というか変えられるチャンスを持つてるのは民衆だけなのかもしれない。だっておいしい思いをしてる人は苦しみに気付けないから、気付きたくないから。

また有名ななんとかさんが言ってた。「草の根の声なんてでかければでかいほどいいんです」その通りだと思った。あれだけたくさんの人があの日あそこに集まって、考えたのだとおもうと、もしかすると本当に戦争をなくせるかもしれない、と思った。戦争をなくすために一步でも動いたらなくなるかもしれない。というか声を上げないことにはなんもかわらない。頑張ろうと思った。なんか勇気づけられたなあ。

その2

それともう一つ九条会議で感じたこと。

「あの苦しい戦争を終えた日本はもう二度と繰り返さないと九条を持ちました」とよく聞く。私はこれがひっかかる「あの苦しい戦争がなかったら…ずっと繰り返していたのか？」って。被爆者の方の言葉にも「南京のときも万国事変のときもバンザイしていた。でも原爆で死んでいくひとを見たとき、戦争はただの人殺しだと気付いた。」というのがあった。

負けて、苦しい思いをしないで勝って、おいしい思いだけしていたら戦争の本当の姿が見えなくなるんじゃないかなあ。

今のアメリカはそうになっているんじゃないだろうか。勝ち続け、喜び、いつのまにかその力を手放すことさえ恐くなってしまった。

じゃあ、アメリカを負かせて一度痛い目に合わせればいい??違う。それはただの繰り返しだと思う。

その3 ブース

ブースもよかった。九条という名前の元にあれだけたくさんの活動が集まるんだなあって思った。その中には自分と同じようなことやってる人がいたり、自分がまだまだ知らない事やってる人がいたりして、元気づけられたし、刺激された。本当にいろんな人が考えてるんだなあ。菜の花プロジェクトから、基地問題、慰安婦問題、九条すぷーん！？まで……いろんな人が考えて地道に活動してるんだなあって。

そんないろいろな人との出会いがうれしかったな。人との出会ってやっぱり大切だな。

けいこ

~~~~~

この9条世界会議に参加して、色んな方向から、様々な国側から私自身何かを受け取れた気がした。

ひとりひとり話してくれる言葉の重さをみしみし感じる。

私がこんなふうに当たり前前に過ごしている日常は、きっと地球全体からしてみれば当たり前なんかじゃないんだと実感した。

9条というものがどれだけ私たちに人間らしく生きるということを与えてくれているのか。普段過ごしていると忘れがちになるけれど、今もどこかで食べ物が食べられず死んでいく子供がいる。戦場へとかりだされる子供がいる。貧しさゆえにそんな子供たちをどうすることも出来ない大人がいる。

もちろん、9条が存在する日本にも様々な問題がある。

9条はそんな世界に必要でもっともっと広げていくべきものなのに、「なくす」と言う人の言葉は私にとってあまりに軽く感じる。

本当になくなってしまったら、日本や世界はどうなるの？

9条というもののありがたみを、私自身この場所で気付けた。

私が今ここで過ごしてられるのも、笑ってられるのも、こうして文字を綴ってられるのも、沢山のひとと出会えるのも、根っこには9条というものがあるということ。そしてあたりまえに過ぎてゆく日々がどれだけ幸せかってこと。人はきっと今以上の幸せを求めるけれど、あたりまえの幸せほど幸せなことはないのかもしれないと私は思う。

あの会場で学べたことは9条のことや今の現状だけじゃなく、人と人が繋がることや生きること自体の意味も学べたような気がする。

沢山のひとが繋がる瞬間をみた。

それはとても幸せなこと

かけがえのない大切にしていかなくちやいけないことだった。

ゆきこ